

おいでませ山口国体を終えて

会長 守政 男

山口国体が10月に開催され、下松市においても成年男子、女子のバスケットの試合が行われました。大会に向けて、女子の選手は全員下松市内の各家庭に分散しての民泊となりました。花岡地区におきましても、2チームの選手を民泊させて欲しいという依頼がありましたので、生野屋及び花岡両地区にそれぞれ両県の選手の宿泊をお願いしましたところ、各家庭でお引き受けをいただきました。大変有難く頭の下がる思いでした。本当に有難うございました。

さて、9月30日の午後には、静岡・山形両県の選手の皆さん方が到着されました。その夜は役員関係者をはじめ、民泊家庭の皆さんも共に両県の選手や監督さんをお迎えして、歓迎会を開催しました。選手のみなさん方は大変な長旅にもかかわらず、疲れた様子もなく、参加した者全員で楽しく会も大変盛り上がりました。両県の選手の皆さん方は共に若さにあふれ、その上非常に明るく穏やかな選手ばかりでした。この選手達ならそれぞれの試合もきっと頑張ってくれるものと思い、なにかうれしくなり是非とも明後日からの試合にはたくさんの者が応援に行かなくてはならないという気持ちになりました。

10月2日より両県とも試合に臨み、各選手達も精一杯戦っておりました。花岡地区からもたくさんの皆様が応援に駆けつけて声を限りに声援を送りましたが、残念なことに山形県のチームは準々決勝で惜敗しました。しかし、大変うれしかったことは、静岡県のチームが見事に準優勝という立派な成績を収めてくれたことです。

10月5日の夜には、井川下松市長にもおいでいただき、静岡県チームの祝勝会と送別会とを兼ねて盛大な会を催しました。喜びの気持ちとお別れすることへの寂しい気持ちとが共に交錯して、何とも言えない複雑な気持ちになりました。

10月6日の朝には、静岡県チームの皆さんが帰られるということで、公民館において多くの者がお見送りをしました。別れの寂しさがぐっとこみ上げてくるのを強く感じました。数名の者は下松駅までお見送りに行き、列車に手を振ってお別れをしました。

今回の民泊の受け入れを終えて、強く心に感じたことは、役員関係者はもちろんのこと、特に調理班をはじめ、各班の皆様方に大変ご苦勞をおかけしました。なかでも民泊をお引き受けいただきました各家庭の皆様方には、一方ならないご苦勞とご心勞をお掛けし、大変お疲れ様であったことと思います。深く感謝申し上げます。

いずれにしましても、このたびの民泊に対しまして、花岡地区の多くの方々の力が一つになり、このような素晴らしい成果を上げることができたものと、大変有難く思います。

改めてここに皆様方の力の素晴らしさに驚きを感じますとともに、本当に頭の下がる思いでいっぱいです。この素晴らしい力をこれからの花岡地区の街づくり等にもしっかりと生かしていきたいものだと思います。

最後になりましたが、関係者の皆様方に深く感謝申し上げると共に、多くの方々のご苦勞に対しまして心よりお礼を申し上げます。

本当に有難うございました。





民泊の思い出

総務班長 中村隆征

総務班は、協力会の総務としてのお役目はもちろん、民泊活動のすべての業務の総括的な仕事で、我々に与えられた任務であると認識し、準備の段階から力が入りました。

選手が花岡に入ってから、緊張の毎日でした。毎朝、6時から公民館に詰めて、選手の体調はどうか、トラブルはないか、などあらゆる方向に目をむけながらの毎日でした。夜は8時過ぎまではあらゆる突発的なことにも対応できるよう、待機していました。これが7日間続き、我々自身の体調にも気を付けながら、任務を全うしました。「おもてなしの心」をモットーに選手、監督さんからの要望にはすべて耳を傾けしっかりと対応したつもりです。選手がシャワーを浴びたいと言えば、総務班のメンバーのマイカーで風呂屋に案内したり、買い物をしたいと申し出があれば、西友のショッピングに案内したり、リラックスしたい時は、神社に案内して必勝祈願もしてもらいました。

花岡には、お稲荷様、花岡八幡宮、関伽井坊、と祈願する神社仏閣に不足はありません。監督さんは八幡様に、そして選手たちはお稲荷へ必勝祈願に、毎朝、密かに？お参りしていたそうです。ご利益があったか、静岡チームは優勝戦まで勝ち進みました。残念ながら準優勝になってしまいましたが、われわれ花岡民泊協力会にとっては最高のうれしい思い出を作ってくれました。

決勝戦の入場の時は、選手、監督までお稲荷さまのキツネのお面をかぶってパフォーマンスをしてくれたり、それぞれの民泊家庭で楽しい家族の一員になってくれたり、協力会のボランティアの多くの地域の人たちに、元気と、感動と、そして「やればできる」という勇気と自信を与えてくれた選手たちに、改めて感謝します。

ありがとう！ ありがとう！

民泊の思い出

美化班長 松本 治

我々の班は、環境協議会員6名、友愛クラブ6名の計12名での活動でした。

5月に生育土地を借り受け、7月1日に第一回の会議を行い、班員の顔見世をしました。7月下旬より9月下旬まで、約2か月間、6班に分けて人里離れた？場所でもあり、事故などを考慮して2人1組でローテーションを組んで生育管理作業を行ってきました。

朝夕、毎日の水やり、肥料、消毒などを実施し、酷暑の中全員の協力で立派な花を育てることができました。

夏の花を秋口に満開に咲かせることに気を遣い、雨などの影響もあり途中根腐れを起こしかけたこともありましたが、皆と連絡を取り合い、何とか乗り切ることができました。

9月20日頃に配合肥料を施したのが良かったと思っています。

この度の活動で、他の団体（友愛クラブ）の皆様と一緒に活動できたことは、今後の公民館行事においても意義あることになると思います。

友愛クラブの皆様、そして環境協議会員の皆様、大変ご苦勞をおかけしました。本当に有難うございました。



民泊の思い出

調理班長 田村恵代

静岡県チーム担当として、調理班12名でお引き受けしました。7日間の調理を担当しました。この間に事故などは全くなく無事終了したことは本当にうれしく思います。

開催前には3回の調理実習をし、特に衛生面には細心の注意を払って実施しました。少し調理の所要時間などに不安がありましたが、選手をお迎えし、いざ開始するとそんなことを考える余裕もなく、あっという間の7日間でした。選手の皆さんの体調を崩さないように、バランスのとれたメニューを考えてみましたが食べる量は人それぞれに違うので、少々食べ残しは仕方ないことかも知れません。

送別会の際には選手の皆さんが、「食事おいしかったです。ありがとうございました」と言われ、調理班として一生懸命頑張った甲斐があり、とてもうれしい気持ちでいっぱいになりました。

民泊の思い出

歓迎班長 角井武彦

歓迎班の活動では、それぞれの特技やアイデアを出し合って活動し、困ったことはありませんでした。

祝勝会では、井川市長にも出席いただき、また、花岡小の児童3人の飛び入りや全ての選手が「この花岡地区の皆さんの親切は絶対に忘れません。」との感動の涙をながしたりと、歓迎班皆さんの一生の思い出となりました。



花岡公民館、民泊協力会の皆さんお元気ですか？

大会期間中の約1週間、私たち静岡県バスケットボール成年女子チームを受け入れてくださり、大変お世話になりました。

私自身、民泊が初めての体験でしたので、当日まで緊張していました。しかし、花岡の皆さんが笑顔と拍手で迎えてくださって、緊張が喜びへと変わっていきました。期間中も毎日会場へ足を運んでくださり、地域一体となって応援していただいたり、家へ帰れば民泊先の方々がまるで家族のように接してくれ、私達は大変すごしやすい環境で生活することができました。

「少しでも長く、花岡にいたい」と思う気持ち生まれ、チームの活力となって、最終日の決勝戦へコマを進められたのではないかと感じます。

結果は、準優勝となってしまいましたが、決勝戦前のセレモニーで、きつねのお面をつけて入場したことは、一生の思い出です。

高校時代、三度国体に出場いたしましたが、大人になった今、こうしてまた全国大会にかつての友人と仲間となって出場できたこと、そして選抜メンバーながら練習や試合を重ねてチーム一つとなって戦い抜いたことは大変貴重な経験です。

このような素敵な思い出となったのも、花岡民泊協力会の皆さんのおかげです。チームを代表して心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

静岡県バスケットボール成年女子

主将 森本由樹

